

## 「プラスチック資源循環アクション宣言」の応募状況 企業・業界団体一覧表

企業等名称の下線は、本日、取組を紹介していただく企業等

平成30年11月20日現在

No	企業等名称	業種	主な取組内容	内 容					ページ
				3R	研究開発	国民理解	国際協力	その他	
1	ユニー(株)	食品小売業	①使用済みプラスチックのリサイクルループ ②ペットボトルのキャップにより寄付、再生 ③レジ袋有料化 ④バイオマスプラスチック製容器包装の導入	○					1
2	一正蒲鉾(株)	食品製造業	①使用済みプラスチックのリサイクル ②使用する食品トレーの減量化 ③代替素材の研究 ④環境経営	○					2
3	(株)セブン&アイ・フードシステムズ	外食業	①デニーズでのストロー提供原則禁止	○					3
4	(株)ファインテック	機械製造業	①バイオマスプラスチック等の開発・量産化					○	5
5	日本ハム(株)	食品製造業	①容器包装の簡易化による廃棄物の削減	○					9
6	(株)いなげや	食品小売業	①ペットボトルの回収推進、自動回収機の導入 ②ボトルtoボトル(BtoB)の推進 ③ペットボトルの売却益を小学校等に還元(ペットボトル募金)	○		○			10
7	国分グローサースチェーン(株)	食品小売業	①店舗においてはレジ袋の使用削減を図る ②商品展示会においてもプラスチック問題を取り上げ、啓発活動	○		○			12
8	(株)セブン-イレブン・ジャパン	食品小売業	①ペットボトル回収機の設置(首都圏 300店舗)	○					13
9	公益社団法人 食品容器環境美化協会	団体	①統一美化マークをシンボルとするポイ捨て防止の啓発 ②環境美化教育の支援(表彰) ③市民、企業、自治体等の連携による美化活動(アダプトプログラム)			○			16
10	アサヒ飲料(株)	食品製造業	①通信販売におけるラベルレス商品の発売 ②ペットボトルの減量化 ③植物由来原料の使用 ④環境美化活動	○		○			20
11	ダイドードリンコ(株)	食品製造業	①ペットボトルの自主回収率の向上	○					22
12	キリンホールディングス(株)	食品製造業	①再生樹脂を100%使用したR100PETボトルの導入(BtoB)	○					23
13	サントリーホールディングス(株)	食品製造業	①パッケージの軽量化・薄肉化 ②BtoBからF(フレーク)toPダイレクトリサイクル技術の開発・導入 ③植物由来原料100%ペットボトルの開発	○	○				24
14	(株)伊藤園	食品製造業	①独自のボトル充填システム(NSシステム)を共同開発・採用 ②ペットボトルの軽量化 ③環境美化活動	○	○	○			27
15	森永乳業(株)	食品製造業	①容器包装の環境負荷について認識し、環境配慮設計を推進 ②プラスチックのリサイクルシステムの改善・最適化に協力 ③リサイクルの重要性と分別について消費者啓発を推進	○		○			29
16	大塚製薬(株)	食品製造業	①ペットボトル及び容器包装の軽量化 ②環境美化活動	○		○			31
17	日本コカ・コーラ(株)	食品製造業	①ペットボトルのBtoBと植物由来化 ②容器回収・リサイクルスキームの構築 ③環境美化活動	○		○			36
18	UCC上島珈琲(株)	食品製造業	①都庁舎内店舗における紙ストローの試行参加	○					38
19	雪印メグミルク(株)	食品製造業	①アルミ箔が付着している端材プラスチックの再利用	○					39
20	農業用フィルム リサイクル促進協会	団体	①使用済み農業用フィルムの100%回収をめざした啓発活動、優良事例の紹介等 ②使用済み農業用フィルムのスムーズな処理、持続可能な国内循環モデルの調査、開発及び普及	○	○				40

No	企業等名称	業種	主な取組内容	内 容					ページ
				3R	研究開発	国民理解	国際協力	その他	
21	<u>日清食品ホールディングス(株)</u>	食品製造業	①プラスチック製容器から紙製容器への変更 ②バイオマスプラスチックの導入検討	○					41
22	(株)明治	食品製造業	①プラスチック製容器包装の軽量化・薄肉化、プラスチックから紙へ変更 ②環境に配慮した素材の使用 ③生産工程のプラスチックの再生品へのリサイクル ④物流工程におけるプラスチックの使用量削減とリサイクル ⑤環境美化活動	○		○			42
23	農業用生分解性資材普及会	団体	①生分解性マルチの利用促進 ②生分解性マルチの特性の有効活用 ③生分解性マルチ・プラスチックの利用場面の拡大 ④生分解性マルチへのカーボンニュートラルな原料導入 ⑤国際協力		○		○		45
24	(株)フジ	食品小売業	①店頭での資源回収 ②レジ袋の使用量削減 ③ピーチクリーン活動	○		○			47
25	ヤマサ醤油(株)	食品製造業	①環境負荷の低減も考慮し、樹脂量の削減	○					48
26	日本マクドナルド(株)	外食業	①「ほんのハッピーセット」プログラム(プラスチックおもちゃから絵本へ) ②プラスチックカップから紙カップに変更 ③プラスチックバッグの削減 ④「ハッピーリぼーん」プロジェクト(店頭で回収したおもちゃをトレイに再生)	○					49
27	日本肥料アンモニア協会 全国複合肥料工業会	団体	①被覆肥料殻の農耕地からの流出防止の一層の強化 ②被覆肥料殻の分解性の向上と被覆樹脂使用量の削減に向けた技術開発 ③他の機能性肥料の活用場面の拡大	○	○				51
28	一般社団法人日本植物油協会	団体	①容器包装のプラスチック使用量の削減 ②プラスチックのリサイクルの推進	○					53
29	日清オイリオグループ(株)	食品製造業	①生産工程でのゼロエミッション継続 ②環境負荷の少ない容器・包装開発	○					54
30	(株)J-オイルミルズ	食品製造業	①新素材や新技術の導入(植物由来のバイオマスプラスチックなど) ②プラスチック容器包材の改善(軽量化、薄肉化など)	○					55
31	(株)エフピコ	包材メーカー	①リサイクルの消費者普及啓発活動 ②「トレーtoトレイ」と「ボトルtoトレイ」のリサイクルによる廃プラスチックの削減 ③食品容器の薄肉化による廃プラスチックの削減 ④「二軸延伸PET」技術によるPET樹脂の省資源化	○		○			56
32	(株)モスフードサービス	外食業	①リユース食器の活用 ②石油由来素材の使用削減	○					65
33	カゴメ(株)	食品製造業	①商品におけるプラスチック使用量低減の継続推進 ②生産工場におけるゼロエミッション(含 廃プラスチック)の継続推進 ③再生 PET 原料の利用検討 ④プラスチック容器の散乱防止啓発のための環境美化活動の継続推進	○		○			66
34	(株)ニチレイ	食品製造業	①容器包装について、薄肉化のほか、トレーの使用やアルミ蒸着を見直し ②事業所周辺において、地域の清掃活動に取り組み	○		○			67
35	(株)精工	包材メーカー	①減プラスチック化 ②リユースの促進 ③プラスチックフィルム袋に印字(「包む」でエコ)することで、生活者にも広く発信	○		○			69
36	(株)セコマ	食品小売業	①店舗にて、店内放送でのレジ袋削減の呼びかけ ②たまごパックの回収(価値付け:BOXティッシュ交換)	○		○			80
37	ワタミ(株)	外食業	①プラスチック製品の段階的使用の低減(リデュース) ②積極的な再使用(リユース)と再生利用(リサイクル) ③排出者責任の原則に基づく分別の徹底と適正処理の遵守	○					81
38	(株)悠心	包材メーカー	①プラスチック減量化を可能にした容器の開発 ②プラスチック減量化を図る液体充填包装機の開発	○					82
	<b>計</b>	<b>38</b>		<b>35</b>	<b>5</b>	<b>15</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	



## 「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

ユニー株式会社

ユニー株式会社は、プラスチックが、一度使えば廃棄され自然には分解しないことから、海洋問題など自然破壊につながることを踏まえ、発生抑制や資源として適切に循環する取組を推進していきます。

### ◆使用済みプラスチック製容器包装のリサイクルループ

家庭ゴミの削減と再資源化を図るために、プラスチック製使用済み容器包装を全店で店頭回収しています。回収した容器包装は、全て再資源として国内循環ルートでリサイクルしています。

2017年の年間回収量は、ペットボトル 2,434トン、発泡スチロールトレイ 279トン。



### ◆ペットボトルキャップのリサイクル

店頭で回収したペットボトルキャップを再生プラスチック専門企業に売却し、NPO「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に全額を寄付しています。2017年の回収量は100.5トン、寄付金額は2,010千円になりました。また、再生プラスチックは自動車部品の原料としてリサイクルしています。



### ◆レジ袋有料化実施にてレジ袋削減

2007年からレジ袋有料化を開始しました。2014年に全店にてレジ袋有料化を実現しました。2017年には、ユニー計の辞退率は85.6%となり、ピーク時の2007年と比べ年間68,852千枚の削減となりました。

### ◆バイオマスプラスチック製容器包装の導入

有料レジ袋は、石油由来100%のレジ袋から2012年よりサトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレン25%含有製品に代えました。また、2006年より全店の青果売場でバイオマスプラスチック(ポリ乳酸透)100%原料にした透明ケースやフルーツカップを導入し、年間約40トン使用しています。



連絡先：ユニー株式会社  
担当部署：CSR部  
電話番号：052-585-3080

2018年11月7日



「プラスチック資源循環アクション宣言」  
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

一正蒲鉾株式会社

一正蒲鉾株式会社は、プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、ごみとして環境中に放出されることなく、資源として適切に循環されていくよう、下記のとおり取り組んでまいります。

① リサイクルの推進

プラスチック類の分別処理を徹底することにより、リサイクル推進に積極的に取り組みます。

【具体的には】製造工程における残渣の付着の有無により分別処理

→残渣なしはそのままリサイクル（プラスチックパレット 等）

残渣ありは洗浄後リサイクル（燃料の固化剤 等）

② 使用量の抑制

使用する包装資材の見直しを実施することにより、使用量の抑制に努めます。

【具体的には】使用するトレーの減量化

→カニカマ用トレーを2割減量（薄肉化）他

③ 代替素材の研究

最新技術の研究により、代替素材の研究を行います。

【具体的には】生分解性プラスチックの情報収集

④ 環境経営

会社は、「環境方針」のもと地球環境との共生を図り、持続可能な社会を目指して企業活動を行ってまいります。また従業員一人ひとりは、「行動規範」のもと地球環境に対して知識を深め、見識を持って行動します。

【具体的には】「環境方針」および「行動規範」の制定

→ <https://www.ichimasa.co.jp/corporate/pdf/ir/governance2018.pdf>

[https://www.ichimasa.co.jp/corporate/pdf/ichimasa\\_csr2018.pdf](https://www.ichimasa.co.jp/corporate/pdf/ichimasa_csr2018.pdf)

連絡先：一正蒲鉾株式会社

担当部署：経営企画部 広報・CSR推進室

担当者：広報・CSR推進室長 高山

電話番号：025-270-7114

## デニーズでプラスチック製ストローの提供原則中止

2018年11月1日より、40店舗で試験的に実施

株式会社セブン&アイ・フードシステムズ（東京都千代田区二番町8-8）は2018年11月1日より、ドリンクバー設置店舗の内40店舗で、プラスチック製ストローの提供を原則中止いたします。

但し、お子様などストローのご使用をご希望のお客様には従来通り提供させていただきます。

昨今世界的に深刻な問題となっております「プラスチックごみの廃棄による海洋や生態系への影響」への配慮の一つとして取り組みます。

今回実施する40店舗でのお客様のお声を参考にして、2019年2月末までにドリンクバーのあるデニーズ全店へ順次拡大する予定です。

### 11月1日より実施する予定40店舗

茨城県：筑波学園都市店、日立成沢店、日立河原子店、竜ヶ崎藤が丘店、阿見店、鹿島店、水戸城南店、水戸千波店

千葉県：成田店、佐原店、富里店

東京都：竹の塚店、豊島店、墨田堤通り店、町屋駅前店、綾瀬駅前店、亀有駅前店、北千住駅前店、南千住駅前店、梅島店

神奈川県：小机店、片倉町店、新本牧店、横浜西谷店、港北ニュータウン店、長者町店、横浜都筑店、妙蓮寺店、前里町店、中山駅前店、今宿西店

愛知県：天満通店、高岳店、猪高店、石川橋店、長久手店、守山店、名古屋東新町店、瀬戸共栄通店、日進梅森店



この取り組みにより、国連で定めたSDGsの目標12・14に貢献します

◆本件に関するお問い合わせ◆

株式会社セブン&アイ・フードシステムズ経営企画室（広報） TEL.03-6238-3566 FAX.03-3221-7285

■■ デニーズホームページ <https://www.dennys.jp> ■■

株式会社 **セブン&アイ Food Systems** 経営企画室（広報）

〒102-8415 東京都千代田区二番町4番地5 <https://www.7andi-fs.co.jp>

TEL. 03-6238-3566 FAX. 03-3221-7285

## ストロー使用中止についてのお願い

日頃より、当店をご利用いただきまして、  
誠にありがとうございます。

このたび、世界的に深刻な問題となっております、  
「プラスチックゴミの廃棄による海洋汚染や生態系への影響」に配慮し、  
当店では平成30年11月1日より、  
ドリンクバーで使用しているプラスチック製ストローの使用を  
原則中止させていただいております。

お客様におかれましては、今回の取り組みにつきまして、  
何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、ストローの使用をご希望のお客様は、  
係の者がお持ちいたしますので、ご遠慮なくお申し付けくださいませ。

（デザートドリンクなどストローが必要なお飲み物を）  
ご注文のお客様には、予めお持ちいたします。

セブン&アイHLDGS. は、2015年に国連サミットで採択された  
「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の達成に向けて、  
本業を通じた社会課題の解決に取り組んでいます。  
皆様のご協力を心よりお願いいたします。

2018年11月  
株式会社セブン&アイ・フードシステムズ